

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.54 - 2013年6月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サレジオ会員の皆さん、サレジオ・ミッションの友人の皆さん！

6月、イエスのみ心の月は、福音的な生き方の徹底したあかしを新たに作る機会です！ フランシスコ教皇は深く単純な、非常に宣教的なスタイルをもって、世界の果てまで行くようにと私たちを押し出してくれます！

世界中のサレジオ会員のため、『ドン・ボスコのサレジオ会員の宣教への養成』(http://www.sdb.org/en/Departments/Missions/Mission_Formation) という簡潔な文書が3年がかりでようやく書き上げられ、総長と最高評議会の承認を受け、養成顧問と宣教顧問の署名を入れて2013年1月24日に出版されました。

サレジオ会が世界の133カ国に広がっているにもかかわらず、ふつうのサレジオ会員の生活はそれぞれのローカルな現実集中し、自分たちが修道誓願を通して結ばれているより広い世界的共同体の一部である(会憲第59条)ことを忘れがちです。私たちはまさにグローバル化した世界に暮らしているので、明確な宣教者としての養成を大いに必要としています。宣教のための養成がなければ、福音的な生き方の徹底したあかしも期待できません！

この文書の作成に協力して下さった皆さん一人ひとりに感謝します！すでに会員たちにこの文書を紹介して下さった管区長、養成担当者、宣教促進担当者の皆さんに感謝します。この文書を手に入れることを皆さんにお勧めします。

この旅路のすべての歩みを、イエスの最初の弟子、最初の宣教者であられたマリアにゆだねます！

Václav Clement

宣教顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

イエスのみ心よ、サレジオ会への良い、ふさわしい召命をお与えください！

ド

ン・ボスコはみ心への大きな信心を持っていました。それは頻繁にあずかるゆるしの秘跡、聖体拝領、日々のミサを強く勧めるドン・ボスコの特徴に表れていました。それらの柱の上に彼の教育事業は築かれました。ドン・ボスコはみ心の信心を少年たちに勧め、『9つの祈り』などみ心についての冊子を出し、『み心にささげる月』を書くことをボネッティ神父に委託しました。オラトリオの会則は、み心にささげられる毎月最初の金曜日について定めています。『青少年宝鑑』には「イエスのみ心の祈り」について書かれています。何よりもドン・ボスコは、仲間を罪から導き出し、善へと方向づける良い働きを通しての、危険にさらされた若者のための事業のうちにこそ、この信心の具体的で有効な側面を表したいと望みました。晩年、教皇レオ十三世の要請を受け、大きな犠牲を払ってローマのみ心大聖堂を建てました。

ドン・ボスコの最初の後継者、福者ミケーレ・ルアは1899年12月31日、サレジオ会をイエスのみ心に奉獻し、その際、すべての支部にこの信心に関する指針を送りました。ドン・ルアはこの信心の、特に養成支部における重要性を強調し、修練院をみ心に捧げるよう求めました。ルア神父は亡くなる数日前、召命のためのみ心への祈りを作るよう、チェッルーティ神父に願いました。下の祈りが作られ、ルア神父はこれを承認し、唱え、この祈りの書かれた紙を自分の枕の下に入れるように頼みました。

O

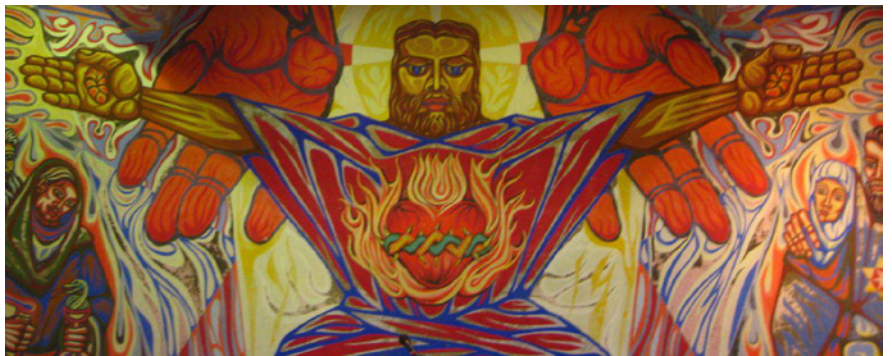
cor Jesu sacratissimum,
ut bonos et dignos operarios
piaae Salesianorum Societati mittere

et in ea conservare digneris,
te rogamus audi nos!

イ

イエスの聖なるみ心よ
わがサレジオ修道会に
良い、ふさわしい会員をお送りください
会員たちが忠実でありますように
主よ、私たちの祈りを聞きいれてください！

イエス・キリスト フィリピン、ヴィクトリアスのサレジオ会の教会



Video

モザンビーク準管区 長上アメリコ・シャキッス神父へのインタビュー(ポルトガル語、英語字幕あり)
vimeo: <http://vimeo.com/66396020>



サ

レジオ会に入る以前、私は英語教師だったので、ヨーロッパあるいはヨーロッパ以外の英語圏で宣教師になることを希望し申請の手紙を出しました。驚いたこと

に、2003年、助祭のとき、ハンガリーに派遣したいと管区長から提案されました！とまどいましたが、3年間ハンガリーで働くことを受け入れました。その間、ポーランドで神学の勉強を仕上げながらハンガリー語を学ぼうとしましたが、とても難しく複雑で、勉強に取りかかるときに寝てしまいました。翌年、司祭叙階を受けた後、私はプロジェクト・ヨーロッパ初のヨーロッパ人宣教師としてハンガリーへ行きました！

最初の3年間はおもに言葉の勉強に費やされました。私はブダペストのデブレセン大学で8か月間のハンガリー語集中コースを受講しました。しかし言葉も文化もとても異質で難しく、自分がコミュニケーションの取れない小さな子どもになったように感じました。私は自立を失い、心理的にも霊的にも苦しみました。実は3度、ハンガリーを去りたいと思いました。今ふりかえてみると、この体験によって私は、自分が理解され受け入れられたいと願うのと同じように人を理解し受け入れなければならないことを学んだのだと思います。

コース修了後、私はペリフルゼンケレスツに派遣され、そこでは私が新しい言語と文化に入って行けるように一人のサレジオ会員が導き手としてついてくれました。彼の助けによって、私は「沖に漕ぎ出す」勇気を得ました！しかし、落ち込んで教室に行きたくない日もありました。生徒たちが私のハンガリー語を笑ってからかうからです。自分の間違いを笑えるようになったとき、はじめて「解放され」、勇気をもって話すことができるようになりました。少しずつ良い友人ができ、友人たちは私の説教や翻訳を手伝ってくれました。最初の数年間の努力の賜物でした。



ハンガリーは10世紀に福音化されましたが、1950年から1990年まで続いた共産主義の迫害によって、キリスト教は壊滅に近い状態になってしまいました。しかし私たちは、福音宣教の出発点として

ドン・ボスコとドン・ボスコの教育について語るのには比較的容易だとわかりました。予防教育法は福音が染み込んでいるからです。私たちの学校やオラトリオの明るい親しみやすい雰囲気は、しばしば信仰への関心を呼び覚ます出発点になります。2010年から私は、カジンツバルツィカのジブシーの子どもたちの学校で働いています。生徒や教職員の多くはジブシーである親から小さいときに洗礼を受けていますが、キリスト教信仰を実践的に生きてはいません。さまざまな多くの要因のため、私たちの多岐にわたる分野での仕事は複雑なものになっています。それらの分野では、新福音宣教だけでなく、第一次福音宣教も

大いに、緊急に必要です。そこで私は、宣教師としてここにとどまることを決心しました。2010年には、新宣教師研修コースに招かれ、ヴァルドッコの扶助者聖母大聖堂で宣教の十字架を受けました。

霊的指導者を見つけるのは簡単なことではありませんが、すべての宣教師に霊的指導者は欠かせません。今日、私がハンガリーで宣教師としていられるのは、定期的に会うことのできる、安定したサレジオ会員の霊的指導者がいるからです。彼にはいつでも話しに行けます。初めのうちはかなり困難でしたが、時とともに勇気を出し、自分の考えや望み、意見を話せるようになりました。今、私は自分の宣教師としての召命により確信を持ち、さまざまな挑戦に立ち向かうために、霊的により安定するようになりました。霊的指導者のおかげで、私はハンガリーの宣教師として幸せです。私は若者をもっと愛せるようになり、その結果、神により近づけるようになりました！

ポーランド出身、ハンガリーの宣教師
ロバート・ククツカ神父



サレジオ会の宣教の意向

西ヨーロッパ地域-スペイン、ポルトガル、フランス-ベルギー(南)のため

この信仰年に、世界のサレジオ会地域の中で召命が最も少ない西ヨーロッパ地域の会員が、信仰、熱意、忍耐をもって、召命の文化を築きつづけることができますように。

西ヨーロッパ地域には8つの管区、約1450名の会員がいます。サレジオ会の8つの地域の中で、サレジオ会修練院のない唯一の地域です。2012年から2013年にかけての年度には3名の修練生がいました。一般的に、世俗化が高度に進んだ社会、低い出生率、会員の平均年齢が非常に高いことは、奉獻生活への召命を促す状況ではありません。この信仰年に、ドン・ボスコの聖遺物の巡礼により会員の信仰生活が強められ、この時代にあっても私たちの働く場の若者たちの中に召命の文化を築き上げるため、新たな熱意と情熱が呼び覚まされるように祈ります。

